

1. 第三者評価報告概要表

作成日

平成21年1月13日

【評価実施概要】

事業所番号	2874900265		
法人名	(社福)神戸聖隷福祉事業団		
事業所名	高齢者グループホームわらしべ		
所在地	兵庫県朝来市和田山町竹田1957-1 (電話) 079-670-6677		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年11月26日	評価結果確定日	平成21年2月19日

【情報提供票より】 (20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	15 人	常勤13人, 非常勤2人, 常勤換算14.23人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	26,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	16 名	男性 2 名	女性 14 名
要介護1	6	要介護2	3
要介護3	5	要介護4	1
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 85.1 歳	最低 77.1 歳	最高 96.4 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	朝来和田山医療センター(旧 公立豊岡病院組合立和田山病院)
---------	-------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>高い吹き抜けの天井から自然な光が入り、ゆったりとした開放感が感じられる。管理者・職員は法人の理念に基づきご利用者が地域の中で安心して生活出来る支援を事業計画の中に掲げ、職員全員で具体化し実践している。職員はグループホームはご利用者と共に生活する場と捉え、ご利用者の自主性を損なわないように、見守りながら支援することを大切に考えている。職員もご利用者から学び取るうとする姿勢がうかがえ、一方的な介護にならないよう配慮している。更に、一人ひとりの生活背景を把握した上での言葉かけを行い、一人ひとりの誇りを大切に接し方に心がけ、常にご利用者への尊厳・プライバシーに配慮したかがわりが出来るように努めている。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <p>昨年の評価報告書を職員に渡し、意見を出し合い業務の振り返りを行い改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>今年度の自己評価については、計画書を作成し、職員全員で評価に取り組んだ。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回、ご家族・民生委員・知見者・行政等の方々に参加を呼びかけ、運営推進会議を開催している。事業所の運営状況・評価結果の等の報告を行い、参加者からの意見をサービスの質の向上に活かしている。また、直接行政窓口に出向き情報交換を行い、意見・助言をサービスの質向上に生かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>苦情相談委員会を設けて対応している。気軽に意見・不満・苦情が伝えられる雰囲気作りを大切にしながら、苦情受付表を作成し、苦情申出人、苦情内容・相談、処理結果を記入、処理結果は家族へ報告するようにしている。更に第三者委員も交えて検討する体制も設けている。また、毎月、利用者の心身の状況・日々の生活の様子・行事参加の写真を同封して報告している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>地域性もあり隣近所との付き合いは困難な状況であるが、日常的な散歩時の挨拶・買い物等馴染みの関係が出来ているおり、近隣の方々が作られた野菜を持って来て頂いたり交流がある。地域で行われるお祭り等の行事に積極的に参加し地域との交流を深めている。ボランティアサークルの訪問もある。</p>

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に基づき、ご利用者が地域の中で安心して生活出来る支援を事業計画の中に掲げ、職員全員で具体化し、実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所理念を朝礼や各会議等の機会に共有し、理念に基づいたサービス提供に努めている。また、基本理念・基本方針を冊子として作成し職員全員に配布している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域性もあり隣近所との付き合いは困難な状況であるが、日常的な散歩時の挨拶・買い物等馴染みの関係が出来ているおり、近隣の方々が作られた野菜を持って来て頂いたりとの交流がある。地域で行われるお祭り等の行事に積極的に参加し地域との交流を深めている。ボランティアサークルの訪問もある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>昨年の評価報告書を職員に渡し、意見を出し合い業務の振り返りを行い改善に取り組んでいる。今年度の自己評価については、計画書を作成し、職員全員で評価に取り組んだ。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回、ご家族・民生委員・知見者・行政等の方々に参加を呼びかけ、運営推進会議を開催している。事業所の運営状況・評価結果の等の報告を行い、参加者から意見をサービスの質の向上に活かしている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>直接行政窓口に出向き情報交換を行い意見・助言をサービスの質向上に生かしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、利用者の心身の状況・日々の生活の様子・行事参加の写真・金銭報告等を担当者が書面にして報告している。また、法人・事業所情報も同時に連絡している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談委員会を設けて対応している。気軽に意見・不満・苦情が伝えられる雰囲気作りを大切にしながら、苦情受付表を作成し、苦情申出人・苦情内容・相談・処理結果を記入し、処理結果は家族へ報告するようにしている。更に第三者委員も交えて検討する体制も設けている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人全体の異動はあるが、利用者や職員のなじみの関係を保つことを重視し異動は最小限に留めるよう努力している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内研修計画を作成し、年間を通して職員を育てる取組みが行われている。また、外部研修にも積極的に参加している。研修参加後は報告書を提出し学びの成果を確認している。法人内で新人研修をはじめ現任者研修・勤務年数に応じた段階的な教育が計画的に実施され、職員育成の取組みが実施されている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関連施設の連絡会に参加し勉強会を実施している。また、他のグループホームの研修会やイベントに参加し積極的に交流を持つよう努めている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご家族とともに見学に来て頂き、お茶を飲んだり雑談をしたりしながら馴染みの関係を築き、ご本人やご家族が安心して入居できるよう取り組んでいる。入居後も何度も面会や外出を繰り返しながらグループホームの生活に馴染んでもらえるよう支援している。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>グループホームはご利用者と職員が共に生活する場として、職員はご利用者の自主性を損なわないように、見守りながら支援することを大切に考えている。職員もご利用者から学び取ろうとする姿勢がうかがえ、一方的な介護にならないよう注意している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご本人やご家族からの情報をもとに、生活の中で興味を示されることを、動作や仕草などから把握するよう努めている。思いを汲み取る事と同時に引き出す支援を心がけている。</p>		
<p>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画はユニット会議の中で担当者を中心にご本人やご家族の要望を取り入れながらチームで適切な支援が行える個別具体的な介護計画の作成に取り組んでいる。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヶ月毎に介護計画のモニタリングを実施し半年に1回計画の見直しを行っている。常に家族との連絡を密に取りながら、急な変化や新たな家族の要望が生じた場合はその都度見直しを行っている。</p>		
<p>3.多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ご本人やご家族の状況に応じて通院や外出支援を行っている。ご本人・ご家族の希望による受診同行・外出・外泊・地域行事への参加等柔軟な支援が行われている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人やご家族が希望する医療機関で受診している。通院介助を行う際は情報を共有するよう電話や文書で報告するよう努めている。また、事業所の協力医療機関との連携も密に行いながら適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>運営推進会議やご家族の集まりなどで意見交換を実施しながら法人としての対応を検討している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの生活背景を把握した上での言葉かけを行い、その方の誇りを大切に接し方を心がけている。常にご利用者への尊厳・プライバシーに配慮したかわりが出来るように努めている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>簡単な日課はあるが、業務を優先することなく、一人ひとりのペースに合わせた一日の過ごし方を支援している。(体操などは自然発生的に利用者主体で行われている。)</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れた献立を作り、買物・調理・盛り付け・片付けなど利用者と共にやっている。季節の食材を取り入れ美味しいものが楽しく食べれるよう工夫している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できるようになっているがご利用者の身体状況・希望に沿った入浴支援を行っている。基本的に同性介助、個浴となっており、プライバシーについても考慮する姿勢がうかがえる。入浴に抵抗を示される場合もタイミングを見て無理なく入浴できるよう配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の生活歴から一人ひとりのできることを把握し、編み物・折り紙・家事・買物など趣味や経験を活かせるような場面作りを行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出支援として、ホーム周辺の散歩、買物による外出を行っている。利用者本位の外出支援として、ふるさと訪問（自宅に出向く）や個別の買物などの支援に取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける暮らしの弊害を充分理解した上で、その時の状況により安全のため鍵を閉めることもあるが、日々の生活では鍵をかけないよう取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	数年前の災害を教訓に「福祉村防災連絡協議会」により相互支援するシステムになっている。消防訓練、自衛訓練と夜間想定も含めた訓練を積極的に実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルサインチェック表に食事量、水分量をチェックし栄養摂取量や水分摂取量の把握をしている。水分摂取量については学習会などで必要量が摂れるよう注意を促している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高い天井が共有空間に開放感を与える造りとなっており、吹き抜けの天井から自然の光が入りゆったりとした雰囲気がある。玄関や廊下などには季節の飾り物や季節の野菜が置いてあり安らぎのある居心地の良い空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品を置き安心して過ごせるよう配置し、自宅との違いによるダメージを最小限にするよう工夫している。		